

松江堀川の水環境について

松江堀川水環境協議会の設立について
松江堀川の生き物事前調査速報



平成27年度 第1回 島根県河川整備計画検討委員会
日時：平成27年6月1日14:00～16:30
場所：島根県民会館第2多目的ホール

島根県土木部河川課

松江堀川水環境協議会の設立について

<目次>

- * 1. 松江堀川水環境協議会 設立趣旨(案)
- * 2. " 規約(案)
- * 3. 今年度の活動計画とスケジュール
- * 4. 松江堀生き物事前調査速報
(4/17 ・ 5/28)

1. 松江堀川水環境協議会設立趣旨(案)

1/2

現在、堀川遊覧船の運航により県都松江市を代表する観光スポットとなり、松江堀川の水環境は観光客や市民に親しまれ、水辺を身近に感じていただいています。

松江堀川は、宍道湖水を導入する水質浄化事業や下水道整備、地域住民や各種団体並びに行政機関が一体となった「水環境改善緊急行動計画清流ルネッサンス21」及び「清流ルネッサンスⅡ」において、官民協働で総合的な水質浄化活動に取り組んだ結果、松江堀川の水質が改善しています。

また、宍道湖同様の汽水であることから、多様な汽水の生物が生息できる水環境を有しています。

1. 松江堀川水環境協議会設立趣旨(案)

2/2

平成27年1月20日の「斐伊川水系宍道湖東域川づくり検討委員会」において、松江堀川について、「観光の視点をもった水環境を改善」、「観光客や市民が身近に汽水の生物を見ることができる環境」、「生物にとって、宍道湖からの休息の場」、「メダカ、サヨリが泳ぎ、護岸にカニが居て、ボラが飛び跳ねている観光地づくり」、「外来種のアカミガメによる汽水環境の生態への悪影響の懸念」などの意見がありました。この意見を「斐伊川水系宍道湖東域河川整備計画」の本文「河川環境の整備と保全に関する目標」に、「松江堀川は、市民、専門家、関係機関と連携し、実態の把握や啓発活動などで、汽水環境の一層の保全に努める」と記載しています。

当面の目標として、「①松江堀川の生態系の把握」、「②水環境の保全のための啓発活動」を行い、今後大きな目標として、「③官民協働での水環境保全活動」④多様な水辺環境の創出」に取り組んでいきます。

このような、多様な汽水環境の保全・改善と、観光スポットである松江堀川の魅力アップを図るため、「松江堀川水環境協議会」を設立します。

2. 松江堀川水環境協議会 規約(案)

(総則)

第1条 本規約は、「松江堀川水環境協議会」(以下「協議会」という)の設立に関する必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 斐伊川水系宍道湖東域河川整備計画の「河川環境の整備と保全に関する目標」に基づき、多様な汽水環境の保全・創出と、観光スポットである松江堀川の魅力アップを図る。

- ① 松江堀川の生態系の把握
- ② 水環境の保全のための啓発活動
- ③ 官民協働での水環境保全活動
- ④ 多様な水辺環境の創出

(組織等)

第3条 協議会は、※別紙の名簿に掲げるアドバイザー(有識者)と会員をもって構成する。

- * アドバイザー(有識者 2名): 越川 敏樹 (島根県河川整備計画検討委員会委員)
寺岡 誠二 (島根県立ゴビウス宍道湖自然館 環境修復担当)
- * 会員: 松江市、島根県の環境、観光、教育、河川部門の担当者 計15名

(補則)

第4条 必要に応じ、「島根県河川整備計画検討委員会」へ報告、または意見を聞く。
2 本規約に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会で定める。

(事務局)

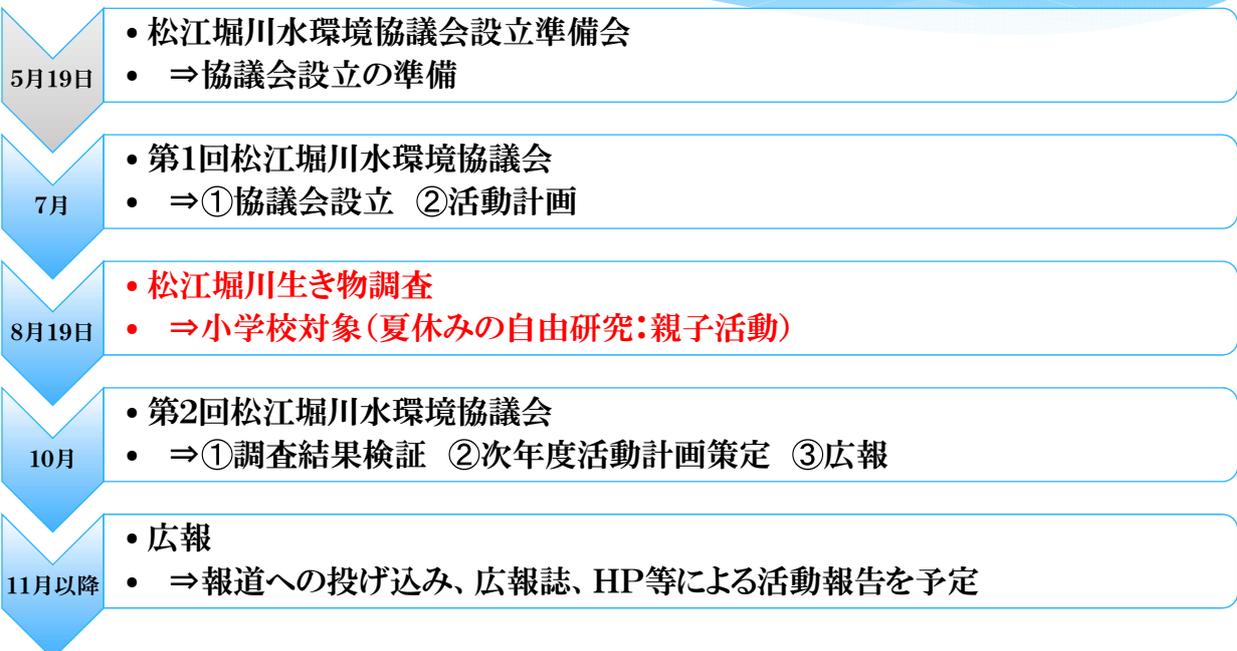
第5条 協議会の事務局は、島根県土木部河川課に置く。

3. 今年度の活動計画、スケジュール

今年度の活動計画

- ①松江堀川の生態の実態把握 ⇒小学生を対象に松江堀川の生き物調査
- ②水環境保全のための啓発活動 ⇒在来生物、外来生物に対する取り組みの啓発

スケジュール



4. 松江堀生き物事前調査速報(4/17)

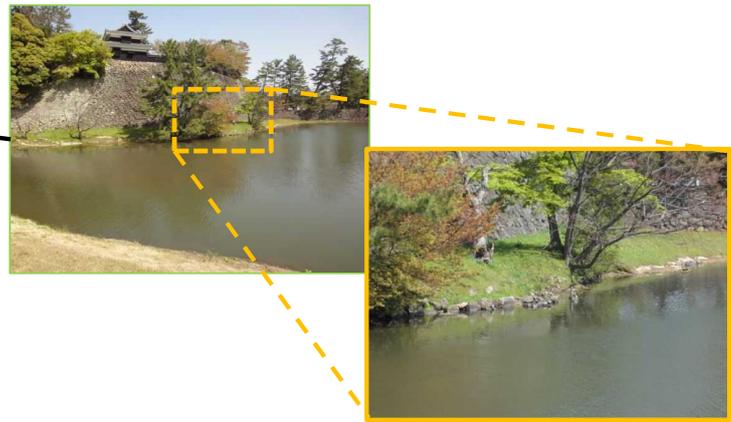
* 調査方法⇒ 目視調査(2名) 調査時間: 約1時間

調査箇所図



調査結果(生き物採取数)

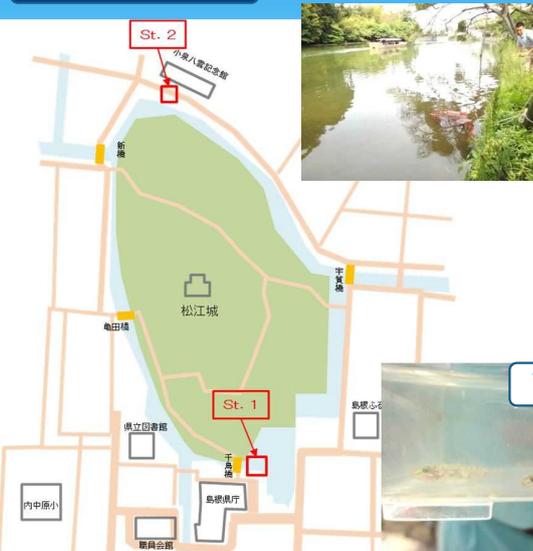
目視調査	聞き取り調査
* アカミミガメ(約40匹)	* ヤマトシジミ(城からの排水口)
* コイ	* スッポン(4年前)
* ボラ	
* オオクチバス	
* アメンボ	
* メダカ	
* カモ	



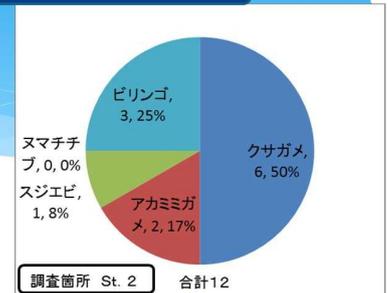
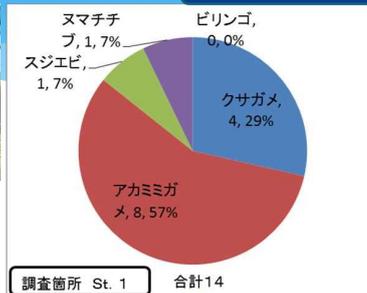
4. 松江堀生き物事前調査速報(5/28)

* 調査方法⇒ 仕掛け(カニカゴ2ヶ、モンドリ2ヶ)を、堀川の2カ所に設置(1日間)

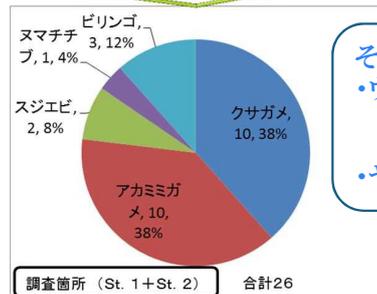
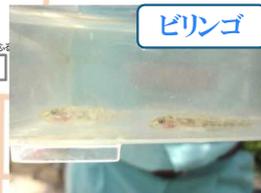
調査箇所図



調査結果(生き物採取数)



ビリンゴ



その他:
・ウチワヤンマ(脱皮直後)
・ヤマトシジミ殻

調査結果まとめ

- * 調査2カ所(St.1、St.2)で合計26匹採取
- * (クサガメ、アカミミガメ、スジエビ、ビリンゴ、アマチチブ等)
- * 全体において、クサガメ(在来種)とアカミミガメ(外来種)の比率は半々
- * St.1はアカミミガメの比率が、少し多い(約6割)

クサガメ
アカミミガメ

